

2013/09/17

外環の2についての意見

近藤 威

1 外環道と外環の2の関係

外環道は連続立体構造である（あった）ため周辺道路網を遮断するものでない、そのため外環の2は外環道の側道ではない。

外環の2は南北道路交通を強化するものであり単純に不要とは言えないが、外環道のような高規格道路でないため線形や位置には制限を受けるものでなく特に位置的代替性が高い。

外環の2は外環道とは機能的に無関係であり単に高架下空間を利用したにすぎない。緑地、公園、駐車場などの高架下利用施設に比べ高架下の線形の空間を道路空間として利用することは利用効率が高いと言える。しかし高架下空間ありきの議論であり、外環道が地下に潜れば外環の2はこの場所での施設は無くなるのが自然の考え方である。

2 外環道は必要か、どうあるべきか

現在東名道、中央道、東北道などの高規格道路は首都高速道路を介して連結している。高規格道路は高規格道路でネットワークを組むのが望ましい。私は、外環道は必要と考える。その建設は慢性的交通渋滞の首都高の渋滞緩和にも資すると考えられる。

私は、外環道はその建設費と維持管理を考えると本来地上部に建設し外環の2も高架下に合わせて整備するのがいいと考える。

しかしこれには「ただし」がつく、道路建設を現在のように市街化が熟成し良好な市街地が連坦する以前にするべきであった。私はすでに外環道を地上部に建設するタイミングを失していると考える。良好に熟成した住宅市街地を切り裂いて道路だけを単純に施設するという現行の事業制度には無理がある。今後の課題として周辺への影響を極小化し新制度を検討することが望まれる。

3 外環の2はどうするべきか

外環道に比べ本来どうあるべきかの議論はさほど重要ではない。むしろ事実の積み重ねを重視すべきである。すなわち外環道の事業用地が地上に確保できないと判断され地下化されたこと、それと同時に外環の2が施設される計画のあった高架下空間が消滅したという事実である。その事実を踏まえれば1で検証したことから、外環の2は外環道地下化と同時に計画を即刻廃止すべきである。外環の2が地上部に建設可能であればそもそも外環道が地下化されることと矛盾する。

外環の2については、当面建設しないとして計画をそのまま残しておくという最近よく聞く「棚上げ」論もありえた。私はこの筋悪の考え方には組みせないが議論としてはある。しかし寝た子をおこして「話し合いの会」を行った以上結論を出すべきである。結論は即刻廃止だ。それが数十年にわたり権利の制限を受けてきた地権者（住民）への誠意ではなかろうかと考える。